

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	05
担当教員	浅田 義久	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1 年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	土 3	単位区分	
講義室	7092	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義は、博士論文を作成するための指導であり、博士論文のレベルに達せられるような、専門的な研究ができるようにする。 特に、博士課程では毎年投稿論文を 1 本作成し、3 年間で博士論文を書き上げることを目的とする。
授業概要（教育目的）
学習目標で記したように、本講義は博士論文のレベルに達する分析手法を身につけます。 そのため、都市問題論、計量経済学以外にも GIS や機械学習などを授業外でも学習していきます。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	ガイダンス	どのように授業を進めるか、どのような自習が必要かを学びます。
第 2 回	投稿論文の項目を検討する (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に目的、簡単なモデルと実証分析への道筋を考える。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 3 回	投稿論文の項目を検討する (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に簡単なモデルと先行研究の選択を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 4 回	投稿論文の項目を検討する (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。モデルの拡充と先行研究の survey を報告する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 5 回	投稿論文の項目を検討する (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証モデルの基本を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 6 回	投稿論文の項目を検討する (5)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証に必要なデータを検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 7 回	投稿論文の中間報告 I (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ概要をまとめる。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 8 回	投稿論文の中間報告 I (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ分析を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 9 回	投稿論文の中間報告 I (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。実証モデルを作成する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 10 回	投稿論文の中間報告 I (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。前回に示唆された内容に実証モデルを拡

		張検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 11 回	投稿論文の中間報告 I (5)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。2 回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 12 回	投稿論文の中間報告 I (6)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単な実証分析を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 13 回	投稿論文の中間報告 I (7)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。目的から実証分析までの整合性を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 14 回	前期の総括 (1)	前期の総括を行う。 【事前学習】2 時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 15 回	前期の総括 (2)	前期の総括を行う。 【事前学習】2 時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 16 回	投稿論文の中間報告 II (1)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する (1)。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 17 回	投稿論文の中間報告 II (2)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する (2)。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 18 回	投稿論文の中間報告 II (3)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 前期で報告した実証分析を深めて (1)。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 19 回	投稿論文の中間報告 II (4)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 前期で報告した実証分析を深めて (2)。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 20 回	投稿論文の中間報告 II (5)	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間

		前期で報告した実証分析を深めてる（３）。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 21 回	投稿論文の中間報告Ⅱ （６）	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】２時間 実証モデルと実証分析が整合的かを検討する。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 22 回	投稿論文の中間報告Ⅱ （７）	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】２時間 投稿論文全体の構成の妥当性を考える（１） 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 23 回	投稿論文の中間報告Ⅱ （８）	前期の検討を踏まえ報告する。 【事前学習】２時間 投稿論文全体の構成の妥当性を考える（２） 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 24 回	投稿論文の最終報告 （１）	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】２時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 25 回	投稿論文の最終報告 （２）	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】２時間 投稿論文の目的から先行研究までを修正し、実証モデルとデータを精査する。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 26 回	投稿論文の最終報告 （３）	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】２時間 投稿論文の実証モデルとデータを修正し、実証分析を精査する。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 27 回	投稿論文の最終報告 （４）	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】２時間 投稿論文の実証分析を修正し、実証分析の結果のまとめを精査する。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 28 回	投稿論文の最終報告 （５）	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】２時間 投稿論文の実証分析の結果のまとめを修正し、全体の構成を精査する。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 29 回	まとめ（１）	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】２時間 投稿論文の最終報告を作成する。 【事後学習】２時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 30 回	まとめ（２）	投稿論文の最終報告書を行い。 【事前学習】２時間 学会等の投稿論文を作成する。

		【事後学習】2 時間 各自の報告に対してフィードバックする。
--	--	-----------------------------------

授業形式
演習形式，毎回学生の報告の評価も行いフィードバックする。 なお，授業は③部分対面型とする。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	50%	0%	50%	0%	100%
評価の特記事項					
様々な自習の到達度も評価に加味します。					

テキスト
講義で紹介する。
参考文献
講義で紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワーは適時変更します。事前に下記の WEB を参考にアポイントを取ること。 https://sites.google.com/a/nihon-u.ac.jp/asada/
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
毎回の積み重ねが重要で，事前に十分な準備を行い，他の報告者へのフィードバックも評価対象になります。
授業用 URL
https://sites.google.com/a/nihon-u.ac.jp/asada/
参考 URL 1
参考 URL2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	01
担当教員	権 赫旭	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1 年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	月 7	単位区分	
講義室	7061	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義では、様々な経済理論を経済諸問題に当てはめて、学術的な実証論文を書ける能力を得ることができる。
授業概要（教育目的）
本講義では、既存論文を輪読しながら、研究者になるために必要不可欠な学術論文の読み方と書き方についても丁寧に指導する。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	マイクロデータを用いた生産関数推計①	Blundell and Bond (2000) "GMM Estimation with Persistent Panel: an Application to Production Functions," <i>Econometric Reviews</i> , 19, 321-340. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 次回の輪読予定の論文を読んでおくこと。
第 2 回	マイクロデータを用いた生産関数推計②	Levinsohn and Petrin (2003) "Estimating Production Functions using Inputs to Control for Unobservables," <i>Review of Economic Studies</i> , 70, 317-342. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 3 回	マイクロデータを用いた生産関数推計③	Olley and Pakes (1996) "The Dynamics of Productivity in the Telecommunications Equipment Industry," <i>Econometrica</i> , 64, 1263-97. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 4 回	マイクロデータを用いた生産関数推計④	Akerberg, Caves and Frazer (2015) "Identification Properties of Recent Production Function Estimators," <i>Econometrica</i> , 83, 2411-51. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 5 回	マイクロデータを用いた生産関数推計⑤	Kim, Petrin, and Song (2016) "Estimating Production Functions with Control Functions When Capital Is Measured with Error," <i>Journal of Econometrics</i> , 190, 267-279. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 6 回	マイクロデータを用いた需要関数推計①	Berry, Levinsohn, Pakes (1995) "Automobile Prices in Market Equilibrium," <i>Econometrica</i> , 63, 841-890. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 7 回	マイクロデータを用いた需要関数推計②	Petrin (2002) "Quantifying the Benefits of New Products: The Case of the Minivan," <i>Journal of Political Economy</i> , 110, 705-729. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間

		論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 8 回	マイクロデータを用いた需要関数推計③	Nevo (2000) "A Practitioner's Guide to Estimation of Random-coefficients Logit Models of Demand," Journal of Economics and Management Strategy, 9, 513-548.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 9 回	マイクロデータを用いた需要関数推計④	Dube, Fox and Su (2012) "Improving the Numerical Performance of Static and Dynamic Aggregate Discrete Random Coefficients Demand Estimation," Econometrica, 80, 2231-67.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 10 回	マイクロデータを用いた需要関数推計⑤	Knittel and Metaxoglou (2014) "Estimation of Random-coefficient Demand Models: Two Empiricists' Perspective, Review of Economics and Statistics, 96, 34-59.輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 11 回	マイクロデータを用いた費用関数推計①	McElroy (1987) "Additive General Error Models for Production, Cost, and Derived Demand or Share Systems," Journal of Political Economy, 95, 737-757.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 12 回	マイクロデータを用いた費用関数推計②	Caves, Christensen and Tretheway (1980) "Flexible Cost Functions for Multiproduct Firms," Review of Economics and Statistics," 62, 477-481 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 13 回	生産性の低下原因	Syverson (2017) "Challenges to Mismeasurement Explanations for the US Productivity Slowdown," Journal of Economic Perspectives, 31, 165-186 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 14 回	マックアップ推計①	Loecker and Warzynski (2012) "Markups and Firm-Level Export Status," American Economic Review, 102, 2437-2471 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間

		論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 15 回	マックアップ推計②	Loecker, Goldberg, Khandelwal, and Pavcnik (2016) “Prices, Markups, and Trade Reform,” <i>Econometrica</i>, 84, 445-510.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 16 回	労働市場の需要独占	Dube, Jacobs, Naidu and Suri (2018) “Monopsony in Online Labor Markets,” NBER Working Paper No.24416.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 17 回	マーケットパワーの上昇	Gutierrez and Philippon (2017) “Investment-less Growth: An Empirical Investigation,” <i>Brookings Papers on Economic Activity</i> を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 18 回	労働分配率の低下①	Karabarbounis and Neiman (2014) “The Global Decline of the Labor Share,” <i>Quarterly Journal of Economics</i>, 129, 61-103 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 19 回	労働分配率の低下②	Grossman, Helpman, Oberfield, and Sampson (2017) “The Productivity Slowdown and The Declining Labor Share: A Neoclassical Exploration,” NBER Working Paper を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 20 回	無形資産と投資	Peters and Taylor (2016) “Intangible Capital and the Investment –q Relation,” <i>Journal of Financial Economics</i>, 123, 251-272.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 21 回	競争政策と生産性	Buccirosi, Ciari, Duso, Spagnolo, and Vitale (2013) “Competition Policy and Productivity Growth: An Empirical Assessment,” <i>Review of Economics and Statistics</i>, 95, 1324-1336 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。

第 22 回	中国ショックと労働市場	Autor, Dorn, and Hanson(2016) "The China Shock: Learning from Labor-Market Adjustment to Large Changes in Trade," Annual Review of Economics, 8, 205-240.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 23 回	Management Practices の決定要因	Bloom, Brynjolfsson, Foster, Jarmin, Patnaik, Saporta-Eksten, and Van Reenen (2017) "What Drives Differences in Management Practices?," American Economic Review, 109, 1648-83.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 24 回	Management Practices と生産性	Bender, Bloom, Card, Van Reenen, and Wolter (2018) "Management Practices, Workforce Selection, and Productivity," Journal of Labor Economics, 36, 371-409 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 25 回	実証組織経済学の進展	Bloom, Sadun and Van Reenen (2009) "Recent Advances in the Empirics of Organizational Economics," Annual Review of Economics, 2, 105-137.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 26 回	人工知能と生産性	Brynjolfsson, Rock, and Syverson (2017) "Artificial Intelligence and the Mordern Productivity Paradox: A Clash of Expectations and Statistics," NBER Working Paper No.24001. を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 27 回	ロボットと労働	McAfee and Brynjolfsson(2016) "Human Work in the Robotic Future: Policy for the Age of Automation," Foreign Affairs を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 28 回	データによる意思決定	Brynjolfsson and McElheran (2016) "The Rapid Adoption of Data-Driven Decision-Making," American Economic Review, 106, 133-139 を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間

		論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 29 回	スピルオーバー効果分析	Bloom, Schankerman, and Van Reenen (2013) "Identifying Technology Spillovers and Product Market Rivalry," <i>Econometrica</i>, 81, 1347-1393.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。
第 30 回	競争とイノベーション	Aghion, Bloom, Blundell, Griffith, and Howitt (2005) "Competition and Innovation: An Inverted-U Relationship," <i>Quarterly Journal of Economics</i>, 701-728.を輪読しながら議論する。 【事前学習】2 時間 論文の内容をまとめる。また、質問事項と整理しておくこと。 【事後学習】2 時間 論文のレプリケーションできる部分について整理しておくこと。

授業形式
プレゼン・討論形式で行う。課題に関するフィードバックは授業中に行う。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	20%	0%	70%	10%	100%
評価の特記事項					

テキスト
特になし
参考文献
オフィスアワー
毎週木曜日の 9 時から 11 時まで、事前にメールをしてアポイントをとること。 メールアドレスは kwontokyo@outlook.com
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
1 週で 1 本の論文を読むペースで進めるので、誠実に参加しないと理解できないので、留意されたい。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	02
担当教員	古庄 修	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1 年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	土 3	単位区分	
講義室	7093	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
本講義では、財務会計論の領域について、営利企業のみならず非営利組織までその対象を広げてより高度な専門知識を得ることを目標とします。営利企業および非営利組織に係るディスクロージャー制度の変容に大きな影響を与えている諸要因を考察するために、会計学研究のための方法の修得も重要な目標になります。 年間を通じて、学会報告の準備と課程博士論文の完成に向けて、本講義における学びを収斂することを目指します。 対応 DP 及び CP : 5, 6, 7, 8
授業概要（教育目的）
私が担当する研究指導は、「財務報告論」の枠組みの中で、いま注目されている ESG（環境・社会・ガバナンス）情報や、SDGs（持続可能な開発目標）に係る企業の取り組みと関連づけた「統合報告」の展開まで視野に入れた研究をすべての学年に共通して行います。 博士後期課程においては、積極的に学会報告と学会誌への査読付き論文の掲載を目指すとともに、課程博士論文の完成に向けた指導を丁寧に行って参ります。

授業計画（30 週）

回	項目	内容
第 1 回	前期ガイダンスおよび研究指導（1）	講義の内容，進め方，評価方法および履修上の注意点について説明します。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて事前に準備した資料を EcoLink からダウンロードし，よく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 2 回	研究報告および研究指導（2）	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 3 回	研究報告および研究指導（3）	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 4 回	研究報告および研究指導（4）	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 5 回	研究報告および研究指導（5）	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 6 回	研究報告および研究指導（6）	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 7 回	研究報告および研究指導（7）	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 8 回	研究報告および研究指導（8）	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。

		と。
第 9 回	研究報告および研究指導 (9)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 10 回	研究報告および研究指導 (10)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 11 回	研究報告および研究指導 (11)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 12 回	研究報告および研究指導 (12)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 13 回	研究報告および研究指導 (13)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 14 回	研究報告および研究指導 (14)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 15 回	前期の総括および研究指導 (15)	前期に学んだことを振り返るとともに，補足的・追加的な解説を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，夏季休暇中においても論文制作を継続すること。
第 16 回	後期ガイダンスおよび研究指導 (16)	前期の講義内容を改めて振り返るとともに，夏季休暇中の研究の進捗状況について報告してもらいます。 【事前学習】 事前に準備した資料を EcoLink からダウンロードし，よく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 17 回	研究報告および研究指導 (17)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間

		講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 18 回	研究報告および研究指導 (18)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 19 回	研究報告および研究指導 (19)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 20 回	研究報告および研究指導 (20)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 21 回	研究報告および研究指導 (21)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 22 回	研究報告および研究指導 (22)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 23 回	研究報告および研究指導 (23)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 24 回	研究報告および研究指導 (24)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 25 回	研究報告および研究指導 (25)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。

第 26 回	研究報告および研究指導 (26)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 27 回	執研究報告および研究指導 (27)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 28 回	研究報告および研究指導 (28)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 29 回	研究報告および研究指導 (29)	研究課題に即した報告の後，研究指導を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，次回授業時の研究報告の準備を行うこと。
第 30 回	後期の総括および研究指導 (30)	後期に学んだことを振り返るとともに，補足的・追加的な解説を行います。 【事前学習】2 時間 講義に先駆けて配布した研究資料をよく読んでおくこと。 【事後学習】2 時間 授業内容をよく復習するとともに，冬季休暇中においても論文制作を継続すること。

授業形式
授業形態については，事前にスケジュールを設定し，進捗状況を踏まえて Zoom 等も用いながら部分対面型で行います。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%		0%	50%	50%	100%
評価の特記事項					
出席点を加点要素として，学会報告および課程博士論文の完成に向けた執筆論文の出来栄を総合的に評価します。					

テキスト
田村・中條・浅野共著『会計学の手法―実証・分析・実験によるアプローチ〔第2版〕』中央経済社，2021 年を事前学習のテキストとします。その他，論文制作に必要な文献は随時紹介します。
参考文献
開講時に指示します。
オフィスアワー
月曜日 12 時 15 分から 12 時 55 分までとします。事前のアポイントを要します。 なお，メールアドレスは初回事業時に指示します。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
言うまでもありませんが，出席点（授業への参画度）にも関係しますので，無断欠席がないようにお願いします。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	03
担当教員	三井 泉	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1 年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	水 6	単位区分	
講義室	7101	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
1. 大学院博士前期課程までに学んだ知識を基礎として、自らの問題設定の下に博士論文を作成する。 2. 問題設定の行い方と、先行研究、基本文献、関連文献、資料等の収集と整理の仕方を学ぶ。 3. 上記を踏まえて、自分自身の論理的フレームワークを構築する方法を学ぶ。 4. 上記のフレームワークに基づいて、問題を分析し、論理的に結論を導いていく方法を学ぶ。 5. 学内外の研究会・学会などで報告や論文投稿を行い、説得力のある論理と結論を構築し、最終的に博士論文を完成させる。 対応 DP および CP:5,6,7,8
授業概要（教育目的）
1. 博士前期課程までに学んだ専門知識の再確認の上で、博士論文の課題を設定してもらう。 2. 博論作成のプロセスを示した上で、その段階的学習へのアドバイスを、適宜個別指導を繰り返していく。不足知識があれば基本文献の読解も行う。 3. 課題設定の仕方、先行研究・関連文献・資料等の検索の仕方、整理の仕方を実践を交えながら習得してもらう。 4. 研究方法論、分析手法、論理構築のやり方を学習してもらいながら、結論へと自ら導いていけるように、個別指導を通じて学習支援する。 5. 論文の完成度に従い、学内外の研究会や学会での報告や国内外の学術誌への投稿を行い、それらが蓄積されて博士論文の完成にいたるよう指導する。 対応 DP および CP:5,6,7,8

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	イントロダクション 博士論文作成のプロセス	博士論文とはどのようなものであり、論文執筆のプロセスについて全体像を説明し、各自で完成念を設定して、計画を立ててもらう。 事後学習 2 時間以上：各自で執筆計画を作る。
第 2 回	研究課題の設定について	博論の研究課題の設定とはどのようなもので、どのように行っていくかということの説明し、今前の研究を踏まえて大略的な課題設定を行う。 事前学習 2 時間以上：博論の課題について検討しておく。 事後学習 2 時間以上：講義に基づいて課題を見直す。
第 3 回	研究の動機・目的・方法	研究課題が決定している場合は、その研究の目的を明らかにし、研究動機、方法などを確認していく。決定していない場合は、さらに課題設定に取り組む。 事前学習 2 時間以上：課題設定ができれば、動機・目的・方法の検討をする。 事後学習 2 時間以上：講義にもとづき、動機・目的・方法を再確認していく。
第 4 回	先行研究・関連文献等の 検索・収集・整理	先行研究・関連文献等の検索・収集・整理の方法について、実践を通じて学び、質疑応答を行う。 事前学習 2 時間以上：研究動機、目的、方法の確認を行う。 事後学習 2 時間以上：先行研究や関連文献について検索・収集・整理を行う。
第 5 回	研究論文の研究：博士論文の性格とは	「博士論文とは何かについて、従来の「学術論文」との違いを踏まえて、構成や論述方法などについて学ぶ。代表論文のいくつかを検討する。 事前学習 2 時間以上：先行研究や関連論文の検索、収集、整理、検討を行う。 事後学習 2 時間以上：自分の研究課題に関連する学術論文を読む。
第 6 回	類似した研究分野の博士論文の検討①	課題が類似している博士論文を検索・収集し、それらの課題設定、研究方法、構成、参考文献などについて検討する。 事前学習 2 時間以上：先行研究論文をよく読んでおく。 事後学習 2 時間以上：読んだ論文を参考に、自分自身の論文の構想を練る。
第 7 回	類似した研究分野の博士論文の検討②	同上
第 8 回	類似した研究分野の博士論文の検討③	同上
第 9 回	博論の研究課題の設定①	研究課題の設定について、類似する博論の検討を踏まえて討議する。 事前学習 2 時間以上：これまでの検討を踏まえて、課題設定を行う。 事後学習 2 時間以上：指導の結果に基づき、研究課題を再検討する。
第 10 回	第博論の研究課題の設定②	同上
第 11 回	国内外の先行研究の検索方法とリスト作成の方法	先行研究の検索方法とリスト作成方法についての検討を行う。 事前学習 2 時間以上：先行研究の検討結果をまとめる。 事後学習 2 時間以上：ディカッションを踏まえて、検討結果を精査する。
第 12 回	研究課題・目的・方法のプロセス確定	今までの検討結果をまとめ、研究課題→目的→方法のプロセスを確定させる。 事前学習 2 時間以上：各自が上記のプロセスをまとめておく。 事後学習 2 時間以上：講義を踏まえて、上記を再検討する。
第 13 回	博論の全体構想（仮アウトライン）の検討	今までの検討を踏まえて、博士論文全体の構想（仮アウトライン）作成する。それに従って、下記進めていくための計画を立てる。 事前学習 2 時間以上：今までのプロセスに沿って、仮アウトラインを作成する。

		事後学習 2 時間以上：講義で学んだことに基づき、仮アウトラインを再検討する。
第 14 回	前期の振り返り：ここまでのプロセスの再確認と再検討	今までの講義のプロセスを振り返り、不十分なところについて再確認し、充足させるための検討を行う。 事前学習 2 時間以上：自分の進捗状況を確認し、問題点を明確化する。 事後学習 2 時間以上：講義に基づき、問題解決を行い先へ進めていく。
第 15 回	ここまでの経過確認と今後の執筆計画立案	前期の講義（論文執筆の基礎学習）を踏まえて、論文構成に従って今後の執筆計画を立案する。より具体的に完成期限を想定し、投稿予定雑誌や発表学会などの検討も行う。 事前学習 2 時間以上：今後の執筆計画と発表計画を策定する。 事後学習 2 時間以上：講義内の話し合いを踏まえ、計画を再検討する。 夏季休暇中：各自で計画に基づいて研究を進め、必要があれば、適宜指導教授に適宜連絡する。休暇中に学会報告等がある場合には、適宜研究会を実施する。
第 16 回	夏季休暇中の成果報告	夏季休暇中の執筆成果を報告し、今後の執筆計画を立てる。 事前学習 2 時間以上：休暇中の成果報告をまとめておく。 事後学習 2 時間以上：後期の執筆計画を立てる。
第 17 回	個別論文指導①	論文の進捗状況に合わせて、執筆指導を行っていく。不足している資料等については追加検討を行う。ある程度執筆が進んだ段階で、発表学会ならびに投稿雑誌などについて検討を行う。 事前学習、事後学習の全ては論文執筆に充てられる。
第 18 回	個別論文指導②	同上
第 19 回	個別論文指導③	同上
第 20 回	個別論文指導④	同上
第 21 回	研究報告会①	学内外の関連研究者による研究会を開催し、相互に意見交換を行う。それを参考にして、今後の執筆を進める。
第 22 回	個別論文指導⑤	20 回に同様。
第 23 回	個別論文指導⑥	同上
第 24 回	個別論文指導⑦	同上
第 25 回	個別論文指導⑧	同上
第 26 回	個別論文指導⑨	同上
第 27 回	研究報告会②	学内外の関連研究者による研究会を開催し、相互に意見交換を行う。それを参考にして、今後の執筆を進める。
第 28 回	個別論文指導⑩	26 回に同様。
第 29 回	個別論文指導⑪	同上
第 30 回	今年度の成果報告と博士論文全体の進捗状況確認	今年度全体の成果（研究報告、論文等）を報告し、博士論文全体の完成状況を確認して、次年度以降の研究計画を検討する。

授業形式
講義形式は③の部分対面型とする。（新型コロナウイルスの感染状況により、①②も取り入れる）

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	0%	0%	%	100%	100%
評価の特記事項					
博士論文は、課程博士の期間内（3 年～6 年）の間に仕上げることを目的とする。そのためには、全体構成を確認しながら、毎年 1－2 本の論文を執筆して蓄積する必要がある。それらを全体的に判断して評価する。					

テキスト
参考文献
オフィスアワー
時間を調整した上で随時行う。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
課程博士の論文作成と申請は、将来的に研究者を目指すものにとって、必ず通らなければならない関門である。また、特定の学問領域のプロフェッショナルとしての証明となるものである。この講義では、受講生が必ず課程博士の期限内に博士論文を完成させて申請できることを目指す。そのためには、各自の自主的な絶えざる研究姿勢が必要である。
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL2

科目情報

科目名	博士課程研究指導	クラス	04
担当教員	村田 直樹	実務経験のある教員 による授業科目	
学年	1 年	科目種別	
開講学期	通年	ナンバリング	
開講時期	通年	科目区分	
曜日・時限	月 6	単位区分	
講義室	7102	単位数	
準備事項			
備考			

講義情報

学習目標（到達目標）
会計学（とくに管理会計論）に対する学術的な貢献を見出せるように研究を進め、その成果として学術論文を執筆・投稿し、最終的に博士論文を完成させる。
授業概要（教育目的）
学術論文を執筆するための研究課題の設定，先行研究の探索と選定，データ収集方法の選択，データの分析，学術的貢献の明確化について助言する。

授業計画 (30 週)

回	項目	内容
第 1 回	ガイダンス	どのように授業を進めるか、どのような自習が必要かを学びます。
第 2 回	投稿論文の項目を検討する (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に目的、簡単なモデルと実証分析への道筋を考える。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 3 回	投稿論文の項目を検討する (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。特に簡単なモデルと先行研究の選択を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 4 回	投稿論文の項目を検討する (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。モデルの拡充と先行研究の survey を報告する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 5 回	投稿論文の項目を検討する (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証モデルの基本を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 6 回	投稿論文の項目を検討する (5)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の概要と項目を検討する。先行研究の survey の拡充と実証に必要なデータを検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 7 回	投稿論文の中間報告 I (1)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ概要をまとめる。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 8 回	投稿論文の中間報告 I (2)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。簡単なデータ分析を行う。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 9 回	投稿論文の中間報告 I (3)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。実証モデルを作成する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 10 回	投稿論文の中間報告 I (4)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。前回に示唆された内容に実証モデルを拡

		張検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 11 回	投稿論文の中間報告 I (5)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。2 回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 12 回	投稿論文の中間報告 I (6)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。2 回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 13 回	投稿論文の中間報告 I (7)	投稿論文の概要と項目を報告する。 【事前学習】2 時間 投稿論文の実証分析を検討する。2 回にわたって示唆された内容に実証モデルを拡張検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 14 回	前期の総括 (1)	前期の総括を行う。 【事前学習】2 時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 15 回	前期の総括 (2)	前期の総括を行う。 【事前学習】2 時間 夏季に行う中間報告のための概要を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 16 回	投稿論文の中間報告 II (1)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 17 回	投稿論文の中間報告 II (2)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 18 回	投稿論文の中間報告 II (3)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 19 回	投稿論文の中間報告 II (4)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず、中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 20 回	投稿論文の中間報告 II	前期の報告の批評を踏まえ報告する。

	(5)	【事前学習】2 時間 まず，中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 21 回	投稿論文の中間報告Ⅱ (6)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず，中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 22 回	投稿論文の中間報告Ⅱ (7)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず，中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 23 回	投稿論文の中間報告Ⅱ (8)	前期の報告の批評を踏まえ報告する。 【事前学習】2 時間 まず，中間報告の教員の示唆から修正点を検討する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 24 回	投稿論文の最終報告 (1)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2 時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 25 回	投稿論文の最終報告 (2)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2 時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 26 回	投稿論文の最終報告 (3)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2 時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 27 回	投稿論文の最終報告 (4)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2 時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 28 回	投稿論文の最終報告 (5)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2 時間 投稿論文の目的から先行研究までを精査する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 29 回	まとめ (1)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2 時間 投稿論文の最終報告を作成する。 【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
第 30 回	まとめ (2)	投稿論文の最終報告を行う。 【事前学習】2 時間 投稿論文の最終報告を作成する。

		【事後学習】2 時間 指導教員の示唆にフィードバックする。
--	--	----------------------------------

授業形式
演習形式，毎回学生の報告の評価も行いフィードバックする。

評価方法

授業期間試験	レポート	小テスト	授業への参画度	その他	合計
0%	50%	0%	50%	0%	100%
評価の特記事項					
様々な自習の到達度も評価に加味します。					

テキスト
授業時に紹介する。
参考文献
授業時に紹介する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
学生へのメッセージ（事前・事後学習の内容など）
授業用 URL
参考 URL 1
参考 URL2